



2026年度 医学科入試動向

2026年度の18歳人口は前年並みを維持、大学志願者全体も前年から大きな変化はないと推測している。第2回全統共通テスト模試から医学科志望者の動向をみると国公立大、私立大とも極端に人気を集めている状況ではない。2026年度入試は新課程2年目であり、共通テスト・個別試験とも旧課程生への配慮はなくなり、新課程から加わった分野が本格的に出題されることとなるが、受験環境そのものは前年度入試を踏襲した形になると見込んでいる。医学科入試を取り巻く環境や入試の変更点などを確認し、冷静な判断で志望校を検討してもらいたい。

では、来春入試の受験環境と、最新の志望動向について詳しくみていこう。

国公立大

国公立大医学科の模試志望者は前年並み

今夏実施した第2回全統共通テスト模試における国公立大医学科の志望者数は、メイン入試である前期日程で前年比101%となった<図表1>。国公立大の前期日程全体の志望者数が前年比100%であることから、人気は落ち着いているといえる。後期日程の志望者数は前年比96%と減少しているが、これは来春より旭川医科大、山形大、佐賀大の3大学が後期日程を廃止する影響が大きい。

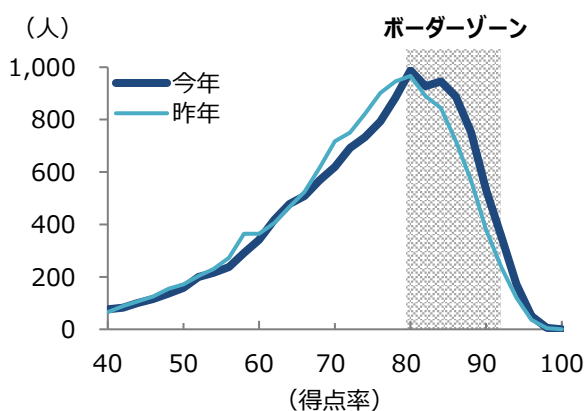
<図表2>は第2回全統共通テスト模試における、国公立大医学科（前期日程）志望者の成績分布である。医学科の予想ボーダーラインに相当する得点率帯（ボーダーゾーン）を網掛けで示した。分布をみると、医学科の志望者全体は前年並みとなったものの、ボーダーゾーンに相当する得点率帯の志望者は昨年に比べ増加していることがわかる。ボーダーラインに及ばなかった受験生はもちろん、現時点でボーダーゾーン以上に到達している受験生も油断せず、努力を継続してほしい。

<図表1> 国公立大医学科 志望動向

日程	志望者数		
	2025	2026	前年比
前期日程	13,467	13,627	101%
後期日程	3,014	2,887	96%

※第2回全統共通テスト模試より（以降、すべて同じ）

<図表2> 第2回全統共通テスト模試における
国公立大医学科志望者 得点率分布



※前期日程で集計

各大学の入試変更点・予想される動向

個別の大学の動向に触れていこう。次頁からの<図表3-1> <図表3-2>は前期日程・後期日程の模試志望者数および入試難易度の一覧である。

北海道～東海地区までの前期日程の状況を確認すると、旭川医科大と山形大は後期日程廃止に伴い、前期日程の募集人員を増員する（旭川医科大：40→48名、山形大（一般枠）：60→65名）。この変更は模試時点の志望者数に影響は及ぼさなかったものの、入試本番ではチャンスと捉える受験生が一定数いるものとみる。

とくに**旭川医科大**は2025年度入試で志願者が大きく減少しており、反動による増加にも注意したい。

東京大や**弘前大**では第1段階選抜の実施倍率を変更する。**東京大**は実施倍率を3倍→2.8倍、**弘前大**は8倍→6倍になり、どちらも通過ラインが引き上げられる。こちらも志望動向には大きく影響しなかったものの、狭き門となるので注意が必要だ。

前年度入試の反動が予想される大学にも注意が必要だ。先ほどの**旭川医科大**に加え、**福島県立医科大**、**信州大**、**三重大**などは2025年度入試で志願者が大きく減少した。これらの大学はねらい目にみられることが多く、来春入試では志願者が増加する可能性が高い。すでに模試時点でも**福島県立医科大**では志望者が大きく増加しており、この傾向が続けば、2026年度入試は志願者の増加が予想される。

このほかの大学の志望動向をみると、**札幌医科大**や**群馬大**、**富山大**などが現時点で志望者を集めている。一方、**東北大**や**浜松医科大**では志望者が減少している。これらの大学の動向が今後とも継続するのか、注視していく必要がある。

続いて近畿～九州地区の動向を確認する。2026年度は**京都府立医科大**（99→93名）、**鳥取大**（58→53名）、**長崎大**（76→66名）で前期日程の募集人員の減員幅が大きい。とくに**長崎大**は10名減と目立っているが、志望者は前年並みとなった。来春入試より第1段階選抜の実施倍率が5倍→5.5倍になることから受験生に敬遠され、2年連続の志願者減となるかもしれない。

このほかの大学を前年度入試の状況を踏まえながらみていくと、先述の**京都府立医科大**のほか、**徳島大**や**九州大**、**宮崎大**、**鹿児島大**などで志望者の減少が目立った。このうち、**宮崎大**、**鹿児島大**では2025年度入試の志願

<図表3-1> 国公立大医学科 志望者数・入試難易度（前期日程）

①北海道～東海

大学名	募集区分	志望者数			入試予想難易度	
		2025	2026	前年比	共テ 得点率	2次 偏差値
旭川医科		194	176	91%	79	62.5
札幌医科	一般枠	69	92	133%	82	62.5
	札幌大卒後研修枠	131	110	84%	82	62.5
北海道		332	361	109%	88	65.0
弘前	一般枠	103	106	103%	79	62.5
	青森県定着枠	33	48	145%	78	62.5
東北		412	383	93%	88	67.5
秋田		259	251	97%	80	62.5
山形	一般枠	222	229	103%	83	62.5
	地域枠	19	17	89%	82	62.5
福島県立医科	一般枠	141	186	132%	80	62.5
	地域枠	88	68	77%	79	62.5
筑波	一般枠	544	562	103%	87	65.0
	地域枠【全国】	14	7	50%	86	65.0
	地域枠【茨城】	54	81	150%	86	65.0
群馬	一般枠	196	235	120%	83	62.5
	地域医療枠	22	40	182%	83	62.5
千葉	一般枠	441	450	102%	89	67.5
	千葉県地域枠	26	21	81%	89	67.5
東京		295	278	94%	93	72.5
東京科学		364	352	97%	90	70.0
横浜市立	一般枠	463	477	103%	88	67.5
	地域医療枠	10	15	150%	87	67.5
	県指定診療医療科枠	1	12	1200%	87	67.5
新潟		250	260	104%	84	65.0
富山		130	165	127%	80	62.5
金沢		190	188	99%	83	65.0
福井		137	147	107%	80	62.5
信州		405	404	100%	84	65.0
浜松医科	一般枠	258	209	81%	82	65.0
	地域枠	18	21	117%	81	65.0
名古屋	一般枠	505	555	110%	89	67.5
	地域枠	4	4	100%	89	67.5
名古屋市立		244	273	112%	86	65.0
岐阜		223	227	102%	82	65.0
三重	一般枠	243	253	104%	82	65.0
	三重県地域医療枠	47	44	94%	82	65.0

者が大きく増加しており、敬遠された可能性がある。一方で、2025年度入試で志願者が大きく減少した**奈良県立医科大、山口大、香川大、大分大**では志望者が増加した。このうち、**奈良県立医科大**と**山口大、大分大**は2年連続の志願者減となっており、2026年度入試では志願者が集まることが想定される。

前期日程は医学科のメイン入試であり、入試本番の志願動向は入試変更点や前年度の入試結果の影響を受けやすい。2026年度入試の変更点をふまえ、志望校の状況を冷静に確認したうえで受験校を決定してほしい。

後期日程では、冒頭の通り、来春は**旭川医科大、山形大、佐賀大**で後期日程が廃止となる。その影響を受け、東北地区では**秋田大**、九州では**鹿児島大**などで志望者が大きく増加した。とくに**秋田大**は周辺で後期日程を実施している大学がなく、近隣地区から志願者を集めそうだ。このほか、**奈良県立医科大**は第1段階選抜の実施倍率を14倍→12倍へ変更する点に注意が必要だ。

<図表3-1> 国公立大医学科 志望者数・入試難易度（前期日程）

②近畿～九州

大学名	募集区分	志望者数			入試予想難易度	
		2025	2026	前年比	共通 得点率	2次 偏差値
滋賀医科	一般枠	212	220	104%	84	65.0
	地域医療枠	24	23	96%	84	65.0
京都		320	312	98%	91	72.5
京都府立医科		267	230	86%	85	65.0
大阪		414	412	100%	90	70.0
大阪公立		508	521	103%	87	67.5
	大阪府指定医療枠	13	2	15%	86	67.5
神戸		538	523	97%	87	67.5
奈良県立医科		117	136	116%	86	-
和歌山県立医科	一般枠	190	150	79%	83	65.0
	県民医療枠A	9	12	133%	83	65.0
	県民医療枠C	5	5	100%	83	65.0
鳥取	一般枠	156	174	112%	82	62.5
	鳥取県枠	13	21	162%	81	62.5
	兵庫県枠	7	3	43%	81	62.5
	島根県枠	1	-	-	81	62.5
島根		155	143	92%	81	62.5
	県内定着枠	5	9	180%	81	62.5
岡山		369	394	107%	86	65.0
広島		451	461	102%	85	65.0
山口		117	128	109%	82	62.5
徳島		247	216	87%	83	62.5
香川	一般枠	163	168	103%	81	62.5
	地域枠	19	25	132%	80	62.5
愛媛		116	117	101%	82	65.0
高知	一般枠	97	90	93%	80	62.5
	地域枠	11	12	109%	79	62.5
九州		409	347	85%	88	67.5
佐賀		261	273	105%	83	62.5
長崎		208	211	101%	82	65.0
熊本		229	247	108%	84	65.0
大分	一般枠	98	104	106%	82	62.5
	地元出身者枠	26	25	96%	82	62.5
宮崎		121	103	85%	82	62.5
鹿児島		180	164	91%	82	62.5
琉球		304	339	112%	82	62.5

<図表3-2> 国公立大医学科 志望者数・入試難易度（後期日程）

大学名	募集区分	志望者数			入試予想難易度	
		2025	2026	前年比	共通 得点率	2次 偏差値
秋田	一般枠	199	300	151%	87	-
	秋田県地域枠	40	42	105%	86	-
千葉	一般枠	129	114	88%	92	72.5
東京科学		139	104	75%	95	-
福井		215	265	123%	88	-
山梨		470	563	120%	88	67.5
浜松医科	一般枠	144	146	101%	90	-
	地域枠	7	8	114%	89	-
名古屋	一般枠	88	100	114%	94	-
三重		108	134	124%	90	-
奈良県立医科		308	316	103%	90	70.0
山口	全国枠	127	164	129%	87	-
	地域枠	33	31	94%	87	-
宮崎		109	133	122%	87	67.5
鹿児島		115	171	149%	89	-
琉球		231	296	128%	87	-

私立大

私立大志望者は微増、 共通テスト方式で増加が顕著

私立大についても医学科の志望動向をみていく。第2回全統共通テスト模試における志望者数は前年比103%と微増となった。方式別にみると、一般方式で前年比100%、共通テスト方式で同114%となっており、共通テスト方式で志望者増が目立つ形となった。

＜図表5＞は第2回全統共通テスト模試における、私立大医学科（一般方式）志望者の成績分布である。偏差値67.5以上の高成績層は昨年と比べやや増加したものの、ボーダーゾーン全体でみれば昨年と大きくは変わっていない。各大学の入試難易度は今春から大きく変わらないと予想しており、入試本番に向け引き続き努力を継続してほしい。

各大学の入試変更点・予想される動向

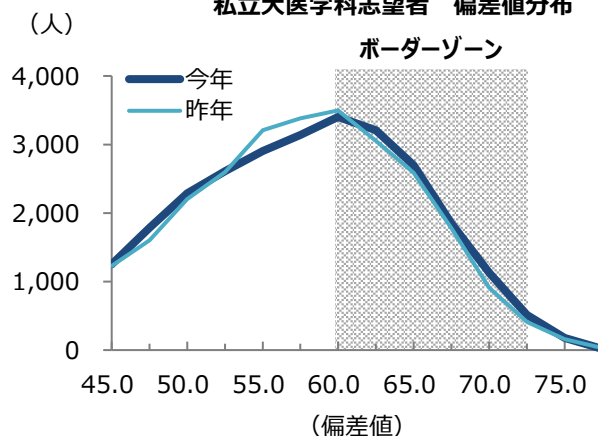
個別の大学の入試変更点・動向に触れていこう。表は一般方式＜図表6-1＞、共通テスト利用方式＜図表6-2＞に分けて掲載した。

一般方式の志望動向を確認しよう。これまで医学科入試における1次試験の日程は1月下旬としていた大学が少なくなかったが、来春は**獨協医科大、北里大、杏林大、金沢医科大、川崎医科大**が1次試験の日程を2月上旬に遅らせる。これにより**杏林大**は**日本医科大**と、**北里大**も**順天堂大**とそれぞれ試験日がバッティングする。現時点での志望動向に影響はみられないが、試験日がバッティングする大学の場合、どちらか一方しか受験できないので、志望校検討の際には注意してほしい。

＜図表4＞私立大医学科 志望動向

方式	志望者数		
	2025	2026	前年比
私立大全体	35,618	36,674	103%
一般方式	28,733	28,811	100%
共テ方式	6,885	7,863	114%

＜図表5＞第2回全統共通テスト模試における
私立大医学科志望者 偏差値分布



※一般方式で集計

＜図表6-1＞私立大医学科 志望者数・入試難易度（一般方式）①

大学名	募集区分	志望者数			2次 偏差値
		2025	2026	前年比	
岩手医科	一般	664	679	102%	62.5
	地域枠C	68	77	113%	60.0
	地域枠D	46	45	98%	60.0
東北医科薬科	一般枠	460	486	106%	65.0
	A方式東北地域	230	194	84%	67.5
	B方式東北地域	94	123	131%	67.5
国際医療福祉		1,188	1,238	104%	67.5
自治医科		1,528	1,513	99%	67.5
獨協医科		527	539	102%	62.5
	栃木県地域枠	41	41	100%	62.5
	新潟県地域枠	26	29	112%	62.5
埼玉医科		604	682	113%	62.5
杏林		727	749	103%	65.0
	東京都地域枠	70	67	96%	65.0
	新潟県地域枠	38	48	126%	65.0
	群馬県地域枠	4	15	375%	65.0
北里		1,171	1,018	87%	62.5
	相模原市枠	29	37	128%	62.5
慶應義塾		1,287	1,245	97%	72.5
	栃木県地域枠	-	18	-	72.5
昭和医科	I期	1,090	1,234	113%	67.5

藤田医科大では来春入学者より6年間の学費が約30%引き下げとなる。直近では、2023年度に大阪医科薬科大が学費の値下げを発表、その年の入試では志願者が大きく増加した。同大についても値下げに加え、今春入試で大学全体の志願者数が減少したこともあり、模試志望者は前年比122%と大きく増加した。加えて、同大は一般方式の後期を廃止し、入試が一本化される。以上のことから、入試本番でも志願者の集中が見込まれる。

私立大でも募集人員の変更に注意したい。私立大では募集人員よりかなり多めに合格者を出すため、少々の募集人員の変更では大きな影響はない。とはいえ、大きく募集人員を変更する場合には注意が必要だ。2026年度は一般方式で**北里大**（75→65名）、**杏林大**（87→79名）、**昭和医科大**（ⅠⅡ期：101名→88名）などで動きが大きく注意したい。この中で**昭和医科大**は志望者が1割以上増加しており、この傾向が続けば2026年度入試はやや厳しいものになるだろう。

このほかの大学をみると、**埼玉医科大**では志望者が前年比113%と1割増となった。2025年度入試では志願者が大きく増加しており、警戒が予想されるが、現時点では人気が続いている。**慶應義塾大**、**順天堂大（A方式）**、**東京慈恵会医科大**といった医学科の中でも入試難易度が高めの大学は志望者が減少した。いずれも2025年度入試で志願者減となっているが、志望に

<図表6-1> 私立大医学科 志望者数・入試難易度（一般方式）②

大学名	募集区分	志望者数			2次 偏差値
		2025	2026	前年比	
順天堂	A方式	1,520	1,465	96%	70.0
	東京都地域枠	65	53	82%	70.0
	新潟県地域枠	32	26	81%	70.0
	千葉県地域枠	28	28	100%	70.0
	埼玉県地域枠	29	43	148%	70.0
	静岡県地域枠	48	36	75%	70.0
	茨城県地域枠	29	47	162%	70.0
	B方式	51	45	88%	70.0
帝京		1,062	1,059	100%	65.0
	福島県地域枠	-	11	-	65.0
	千葉県地域枠	50	14	28%	65.0
	静岡県地域枠	-	11	-	65.0
	茨城県地域枠	-	9	-	65.0
	新潟県地域枠	-	18	-	65.0
	群馬県地域枠	-	13	-	65.0
東海	一般3教科型	579	583	101%	65.0
東京医科		840	904	108%	67.5
東京女子医科		450	467	104%	60.0
東京慈恵会医科		823	695	84%	70.0
東邦		898	835	93%	67.5
日本	N全学第1期	705	733	104%	65.0
	茨城県地域枠	14	19	136%	65.0
	埼玉県地域枠	27	12	44%	65.0
	新潟県地域枠	37	44	119%	65.0
	静岡県地域枠	5	6	120%	65.0
日本医科	前期	900	969	108%	70.0
	前期地域枠	52	60	115%	70.0
聖マリアンナ医科		835	790	95%	62.5
金沢医科	前期	633	647	102%	62.5
愛知医科		918	954	104%	65.0
藤田医科		974	1,187	122%	67.5
	愛知県地域枠	72	79	110%	67.5
大阪医科薬科		925	878	95%	67.5
	大阪府地域枠	21	25	119%	67.5
関西医科		1,444	1,351	94%	70.0
	大阪府地域枠	-	42	-	70.0
	静岡県地域枠	-	15	-	70.0
近畿	前期A日程	832	770	93%	65.0
	大阪府地域枠	38	27	71%	65.0
	和歌山県地域枠	15	10	67%	65.0
	静岡県地域枠	16	15	94%	65.0
兵庫医科	A4科目	989	966	98%	65.0
	B英語資格	50	67	134%	65.0
川崎医科		958	864	90%	60.0
	岡山県地域枠	20	28	140%	60.0
	静岡県地域枠	10	11	110%	60.0
	長崎県地域枠	4	5	125%	60.0
久留米	前期	676	687	102%	62.5
産業医科	B方式	398	415	104%	67.5
福岡	系統別	769	696	91%	62.5

は慎重な様子うかがえる。**大阪医科薬科大、関西医科大、近畿大**など近畿圏の大学では軒並み志望者減となっており、現時点では人気に落ち着きがみられる。

共通テスト方式の状況をみると、共通テスト方式を新設した**北里大**では志望者が136人集まった。後期日程での実施ということもあり、近隣の大学と比べると少数にとどまっているが、共通テスト方式で3月に入試を行う大学は少なく、入試本番では駆け込み出願などによって多くの志願者数が集まる可能性がある。

杏林大では一般方式の募集人員減に伴って、共通テスト方式の募集人員が増加する（15→25名）。志望者は前年比160%と大きく増加しており、注目されているといえるだろう。

学費の値下げを行う**藤田医科大**では共通テスト方式も志望者が増加、人気を集めている。

＜図表6－2＞私立大医学科 志望者数・入試難易度（共通テスト方式）

大学名	募集区分	志望者数			入試予想難易度	
		2025	2026	前年比	共通 得点率	2次 偏差値
東北医科薬科		201	214	106%	85	-
国際医療福祉		548	665	121%	87	67.5
埼玉医科		218	318	146%	83	-
杏林		273	438	160%	84	-
北里	後期	-	136	-	84	-
順天堂	前期	603	688	114%	90	-
	併用	172	217	126%	90	70.0
帝京		337	339	101%	90	65.0
東海		357	376	105%	85	-
	神奈川県地域枠	44	31	70%	85	-
	静岡県地域枠	32	32	100%	85	-
東京医科		313	391	125%	87	-
日本医科	グローバル特別	72	61	85%	86	70.0
聖マリアンナ医科		237	291	123%	85	-
愛知医科		449	442	98%	83	-
藤田医科		374	505	135%	87	-
大阪医科薬科		345	330	96%	89	-
関西医科	前期	484	480	99%	89	-
	併用	246	223	91%	86	70.0
近畿	前期	375	416	111%	86	-
	中期	70	74	106%	86	-
産業医科	A方式	674	711	105%	84	65.0
福岡	I期	461	485	105%	82	-

医学科合格に向けて

ここまで、来春の受験環境と動向に影響を与えそうな入試変更などについてみてきた。繰り返しになるが、来春は受験人口・大学志願者数は前年並みを維持することが見込まれる。医学科の志望者も大きくは増加しておらず、医学科入試の競争激化にまでは発展しないものとみる。現時点では合格圏内に一步及ばない受験生も今後の積み重ねで合格圏内入りをめざせる状況である。

2025年度から出題されている共通テスト「情報」は国公立大では必須となっているが、配点割合が低いケースが多く、過度な心配は不要だろう。個別試験では新課程から加わった分野が本格的に出題されることとなるが、部分的なものにとどまるため、過去問などを利用した対策も十分効果的だ。

なお、医学科入試は学科試験だけでなく面接試験の対策も欠かせない。面接の評価によっては試験の成績に関わらず不合格とする、と明言している大学も珍しくない。面接対策にあたっては、大学がどのような人材を求めているか理解することは極めて重要だ。各大学のアドミッション・ポリシーは大学HPや学生募集要項等に記載されているのであわせて確認してほしい。